

平成30年度

事業計画書

自 平成30年4月 1日

至 平成31年3月31日

誓願

人よ醒めよ醒めて愛に帰れ
愛なき人生は暗黒なり

共に祈りつつ

すべての人と親しめ

わが住む郷に

一人の争う者もなきまでに

人よ起てよ起ちて汗に帰れ

汗なき社会は墮落なり

共に誇りつつ

すべての人と働け

わが住む里に

一人の怠る者もなきまでに

平成30年度 基本方針

人と人をつなぎ、世代をつないで “みんなでまこう！幸せの種”

昨年度は、世界各地でテロが多発し、たくさんの人たちが犠牲になりました。また、北朝鮮による核実験や度重なるミサイル発射は、私たちにとって身近な不安となっています。

国内では、少子高齢化や情報化が進み、家庭や職場・地域での人間関係の希薄化や経済格差が大きな課題となっています。また、経済界では幾つもの企業が品質管理等のデータ改ざんをおこない、社会の信頼を大きく裏切ることになり、生き方や働き方の見直しが求められています。

このように寛容性が失われ、分断や対立、信頼感の喪失が見られる内外の状況において、修養団は「総親和・総努力・総幸福」の理念を高く掲げ、一人ひとりの幸せとともに、みんなが幸せになる社会の実現を目指してまいります。

そのために、全国の会員およびクラブ・連合会との連携をより深め、学校や諸団体・機関の協力を得ながら、家族や職場・地域の人と人をつなぎ、世代をつないで、「愛と汗」を基本とした“幸せの種まき運動”を積極的に推進します。そして、「こんにちは！」という“ふれあいの種”、「どうぞ！」という“思いやりの種”、「ありがとう！」という“よろこびの種”を身近なところからまき、一輪でも多く笑顔の花を咲かせていきます。

I. 青少年活動

※子どもゆめ基金は申請中です。

日本の将来を担い未来を築く青少年が、健康な身体を養い豊かな感性と高い徳性を磨き、有為な青年に成長することを目的に、基本理念である“愛と汗の精神”に基づいた自然体験・社会奉仕体験を中心とした青少年健全育成活動の充実を図る。愛と汗の実践活動として、フィリピン・ゴミ山などの貧困の中で暮らす子どもたちへの支援活動や大震災などの被災者に対する支援活動を継続して展開する。

1. 子ども自然体験活動

“愛と汗の精神”に基づいた子ども自然体験キャンプを全国的に開催し、大自然の中で障がい児を含む異年齢の仲間とともに野営による共同生活をとおして、様々な課題や困難を乗り越え、自主性、協調性、感受性等を育てるなど、次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

(1) 夏期子ども自然体験キャンプ

ア. 子どもゆめ基金助成活動「子ども自然体験キャンプ」《文部科学省後援》

期 日 7～8月 <各3泊4日>
開 催 数 6会場（あっさぶ・桧原湖畔・いばらき・瀬戸内海・鹿児島・沖縄）
*桧原湖畔・沖縄キャンプは障がい児を各10名招待
スタッフ等 各会場スタッフ10名、リーダー15～25名
対 象 小学1年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員 各50～70名

イ. 伊勢青少年研修センター主催「子ども自然体験キャンプ」

期 日 8月 <各3泊4日>
開 催 数 2会場（富士山・関西）
スタッフ等 各会場スタッフ10名、リーダー30～40名
対 象 小学2年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員 各100～120名

ウ. 連合会等組織共催「子ども自然体験キャンプ」

期 日 7月下旬～8月 <各3泊4日>
開 催 数 5～6会場
スタッフ等 各会場スタッフ8～10名、リーダー20～30名
対 象 小学1年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員 各40名～70名

エ. キャンプ事前調査《子どもゆめ基金助成活動》

期 日 6月～7月 <各2泊3日>
開 催 数 6会場
派遣講師 各1～2名

オ. 印刷物の作成

- ①子ども自然体験キャンプリーフレットの作成《子どもゆめ基金助成活動》
部 数 30,000部
体 裁 A4版、6頁、4色刷り

②子ども自然体験キャンプ報告書の作成

部 数 1,500部

体 裁 A4版、84頁

(2)子どもわくわく(招待)キャンプ《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》[新規]

経済的に困難な子どもたちを招待し、自然に恵まれた桧原湖畔にある“ぼんだいふれあいぴあ”でキャンプを行う。

期 日 未定 <3泊4日>

会 場 ぼんだいふれあいぴあ(福島県)

スタッフ等 スタッフ7名、リーダー15名

募集人数 35名(小学1年生～中学3年生の児童・生徒)

(3)冬期子ども自然体験キャンプ

ア.子ども自然体験スキーキャンプ

開催数 2回(12月、3月) <各4泊5日>

会 場 ぼんだいふれあいぴあ、グランデコスキーリゾート(福島県)

スタッフ等 スキー指導員各2名、炊事員各2名、SYD指導者各3名(事務担当者含む)

募集人員 リーダー 各18名(高校生・大学生)

キャンパー各40名(小学1年生～中学3年生)

イ.報告書の作成

部 数 250部

体 裁 A4版、46頁

(4)子ども週末体験活動《子どもゆめ基金助成活動》

自然体験活動や社会奉仕体験活動を実践している高校生・大学生等の青年指導者が集い、専門家や実践者を講師に招き、さまざまな体験活動やその展開方法についての学習をするとともに、新たな視点に立って展開する週末体験活動を模索し実践する。

ア.子どもWAKU×2ひろば

開催数 全国10会場

期 間 通年 <各1日～1泊2日>

イ.WAKU×2ボランティアリーダー研修会

開催数 全国12会場

期 間 通年 <各1日～1泊2日>

(5)夏期少年少女合宿講習会(青年会議所との共催事業)

開催数 4回(7月～8月) <各2泊3日>

会 場 伊勢青少年研修センター(三重県)

対 象 小学生

定 員 各60～100名

予定団体 (一社)伊勢青年会議所、(公社)岸和田青年会議所、(一財)日本教育再生機構
大阪茨木支部、橿原ジュニアサマースクール

(6) 第20回40kmナイトウォークの集い

開催数 1回(9月)
会場 伊勢青少年研修センターほか(三重県)
対象 小学3年生以上の子ども・一般
定員 100名
内容 40kmの夜間歩行

2. 子どもボランティア推進活動

“愛と汗の精神”に根ざした様々なボランティア活動を実践することにより、人のため、社会のために行動することの素晴らしさや真の喜びを体感する。お互いに理解し合い、分かち合い、豊かな感性を磨き、思いやる心や心豊かな人間形成に寄与する。

(1) 第4回SYDきらめきメッセージ全国コンクール《文部科学省後援》

自分が体験したきらめき、ブレイクスルー(壁を乗り越え前進すること)、自分の中の奇跡・・・、そこから生まれた思いや自分へのメッセージを発表することにより、青少年のやる気、元気を育てる。

ア. 応募資格・部門

- ・小学校1年生から満25歳までの青少年(4月1日現在)
- ・4部門★小学生の部、★中学生の部、★高校生の部、★大学生・青年の部

イ. 入賞発表

- ・一次審査会において各部門ごとに入選作品2～3点(計10～12点)を選考し、年内に通知。2月に東京(SYDホール)で全国コンクールを行い、選考・表彰する。

ウ. 全国コンクール

期日 平成31年2月11日(月・祝)

表彰 ◎文部科学大臣賞1点、◎理事長賞1点、◎優秀賞3点、◎きらめき賞数点

*各賞は、記念クリスタル盾および副賞(商品券あるいはSYD事業無料招待)

(2) 幸せの種まきキャンペーン《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

地域、学校、PTA等と連携を図り、これまで実践しているフィリピン等での支援活動を紹介する。ストリートチルドレンやスカベンジャーなど「貧困と共に生きる子どもたち」の現状を理解することにより、ボランティア精神を涵養し、他者への思いやり、命の大切さ、親や周りの人への感謝など、青少年の豊かな心を育むことを目的として全国的に開催する。

ア. 幸せの種まきキャンペーン「出前講座・課外授業」の実施

期日 通年

開催数 全国60会場

実施組織 学校(生徒会、ボランティア部・JRC等のクラブ、学童保育等)、市町村教育委員会・公民館、PTA・子ども会など各種団体・グループ、SYD連合会等組織

派遣講師 各2～3名(SYD講師及びフィリピンでのボランティア経験者)

実施概要 ・参加者 15名以上

・プログラム 90分(標準)ほか

イ. パンフレットの作成・配布

部 数 14,000部
体 裁 A4版、8頁、4色刷り
配 布 先 14,000ヵ所

(3) 東日本大震災被災地訪問青少年ふれあいボランティア

《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

被災者の暮らす復興住宅等を訪問し、手作りのカレーやコーヒー等を提供するなかで、被災者やその子どもたちとふれあい、協力し合い、話し合い、喜びを分かち合う活動を行う。このことにより、青少年がボランティア活動の真の喜びを体感し、思いやる心や豊かな人間性・社会性を高め、自ら考え・行動する力を育む。

開 催 数 年7回（3連休や期間休みに実施）＜各2泊3日＞

*SYD組織と連携して行う特別開催1回を含む

開 催 地 ばんだいふれあいぴあ（福島県）、震災被災者復興住宅等（宮城県石巻市・名取市他）

対 象 真に被災者のことを考え行動できる青少年

募集人員 リーダー各3名（大学生等青年）

参加者各15名（中学生～高校生）

(4) 青年ボランティアゼミナール《子どもゆめ基金助成活動》

開 催 数 年8回

講 師 各1名（国内外のボランティア経験者等に委嘱）

会 場 SYD会議室（東京都）

対 象 東京近郊の青年リーダー

募集人員 各20名程

3. SYD指導者の養成

自然体験や社会奉仕体験などのさまざまな実践活動を実践し、自ら活動の楽しみや喜びを体得するとともに、子どもたちを安全に導きながら体験活動を積極的に推進するための知識や技能を習得し、“愛と汗の精神”を日常的に実践するSYD指導者の養成に努める。

(1) 全国青年ボランティア・アクション in 福島《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

福祉・災害ボランティア活動の心構えや基本的技術を習得し、福祉施設や公共施設、震災被災者が暮らす復興住宅等での社会奉仕活動を実践し、社会奉仕体験活動の楽しみや喜びを体得することにより、ボランティア精神を涵養し、指導者としての資質の向上を図る。

開 催 数 2回 ＜夏休みと春休み各5泊6日＞

開 催 地 福島県及び被災地等（宮城県石巻市、名取市）

スタッフ等 SYD指導者等各5名

対 象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年

募集人員 各30名

(2) 全国青年ボランティア・フォーラム《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

幅広い分野でのボランティア活動についての協議を行い、ボランティアグループの活性化や老壮青の幅広い年代層を取り込んだボランティアを模索し、実践する青年リーダーの育成を図る。

期 日 10月6日(土)～8日(月・祝) <2泊3日>
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)
実 施 青年有志による実行委員会が企画・実施
募集人員 30名(全国の中学生、高校生、大学生等の青少年【25歳位まで】)

(3) 全国青年ボランティア・フェスティバル《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

ボランティア活動や活動の中での気づきや思いを発信する機会として開催し、そこから明るい社会を築くためには、あるいは周りや自分自身を輝かせるために何ができるかを考え、今後の活動の促進を図るための青年リーダーを養成する。

期 日 平成31年2月9日(土)～11日(月・祝) <2泊3日>
会 場 SYDホール、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)
実 施 青年有志による実行委員会が企画・実施
募集人員 50名(全国の青少年および青少年指導者)
プログラム SYDボランティア奨励賞、きらめきメッセージ全国コンクール等

*報告書の作成

上記3事業の報告書を作成し、事業の成果を広く一般に広報する。

部 数 800部
体 裁 A4版、86頁

(4) SYD指導者資格認定制度

“愛と汗の精神”を理解し、自然体験活動や社会奉仕体験活動等を日常的に展開する指導者の養成を目的に、SYDの理念を学ぶSYDアカデミーを実施し、指導者資格証を発行するなど、SYD指導者資格認定制度の運用と充実を図る。

4. 青年組織育成

“愛と汗の精神”に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を年間を通して実践する青年部組織の育成・充実に努める。

(1) 青少年活動(キャンプ)担当者会議の開催

期 日 5月3日(木・祝)～5日(土・祝) <2泊3日>
会 場 ばんだいふれあいぴあ(福島県)
参 加 者 15名(全国のSYD指導者等に委嘱する)

(2) 指導者の派遣と青年組織活動への助成

青年部組織の強化・拡大と活動の充実・活性化を図るため、指導者の派遣と組織活動への助成を行う。特にキャンプ開催地を重点地域とし、SYDのこれまでの魅力や素晴らしさを体感しているOB会の実施等を働きかけ組織活性化のための助成を行う。

ア. 指導者の派遣

派遣回数 10～15回
派遣期間 各1日～3泊4日

イ. 青年組織活動への助成

II. 国際交流

1. ボランティア・アクション in フィリピン

フィリピンケソン市パヤタスのゴミ山で働く子どもたち（スカベンジャー）やマニラ市のストリートチルドレン（路上で生活する子どもたち）を訪問し、ボランティア活動・交流活動・支援活動の実践をとおして友好と相互理解を促進する。このことにより、自ら生きる意味を模索し、国際的視野を広げ、国際協力の精神を涵養し、国際協力における実践力を培い、学校や地域で活動する青少年指導者を育成する。

(1) 青年ボランティア・アクション in フィリピン

期 日 8月21日（火）～27日（月） <6泊7日>
訪 問 地 マニラ市、ケソン市 等
ス タ ッ フ 2名
参 加 者 30名（満15歳から25歳までの青少年*8月22日現在）
主 な 活 動 マニラ市内のストリートチルドレンやパヤタスのスカベンジャー（ゴミ捨て場で働く子どもたち）とのふれあい活動や支援品や食事の提供などのボランティア活動等を行う。

(2) フィリピン支援者訪問ボランティア（学資支援開始15周年）[新規]

期 日 9月21日（金）～24日（月・祝） <3泊4日>
訪 問 地 マニラ市、ケソン市 等
参 加 者 15名（フィリピン支援者及び今後支援をしようとする者）
ス タ ッ フ 2名
主 な 日 程 マニラ市内のストリートチルドレンやパヤタスのスカベンジャー（ゴミ捨て場で働く子どもたち）とのふれあい活動等を行う。

2. ブラジルとの指導者交流事業

(1) 指導者の招聘

ブラジル修養団の推薦する指導者及び青年リーダーを招聘し、伊勢講習会や子ども自然体験キャンプなどの参加・研修をすることにより、ブラジルで開催される少年少女講習会等で活躍する青少年指導者の養成を図る。

ア. 青年指導者の養成

期 日 7月中旬～8月中旬 <約28日間>
招 聘 者 青年リーダー2名（ブラジル修養団推薦者）

イ. 講師の養成

期 日 平成31年2月中旬～3月中旬 <約21日間>
招 聘 者 2名（ブラジル修養団推薦者）

(2) SYD講師の派遣

ブラジル修養団の要請に応じて指導者を派遣し、日伯文化協会等と連携しながら開催される少年少女講習会や教育講演会及びブラジル修養団青年指導者研修会等に従事する。

期 日 平成31年1月～2月 <約35日間>
派 遣 者 講師1名

3. 関係機関・団体主催事業への派遣・受入協力

内閣府、国立青少年教育振興機構等が実施する青少年や指導者を対象とした国際交流派遣事業に積極的に参加者の推薦を行うとともに、国内における各種国際交流活動への指導者・青少年の参加を促進する。

Ⅲ. 講習会・講演活動

企業・団体の社員等、または個人を対象に、“愛と汗”の精神を基本にした健全な価値観を形成し、より良い人格を研くことを目的に開催する。また、受託講習会・セミナーや講演会に講師を派遣し、“愛と汗”の精神の普及に努める。

1. 伊勢講習会

(1) みがく講習会

期 日 4月～平成31年3月 <各3泊4日>
開催数 10回
定 員 各60名

(2) みがく特別講習会

期 日 平成31年2月～3月 <各1泊2日>
開催数 5回
定 員 各100名

(3) 特別講習会

ア. 神嘗祭特別講習会

期 日 ①10月15日(月)～17日(水) <2泊3日> 初穂曳き・神嘗祭コース
②10月16日(火)～17日(水) <1泊2日> 神嘗祭コース
定 員 ①+②で90名

イ. 初詣新春の集い

期 日 平成31年1月 <1泊2日>
定 員 60名

(4) 受託講習会

ア. 2泊3日コース

開催数 1回(9月)
定 員 80名

イ. 1泊2日コース

開催数 12回(通年)
定 員 各20～100名

(5) 一般講習会

開催数 10回(通年)
定 員 各30～50名

(6) 講演活動

企業その他各種団体の依頼により講師を派遣する。

2. 関東・東北地区等講習会

(1) 新入社員セミナー

ビジネスマナーや挨拶訓練等を通して学生から社会人への意識変革を図るとともに、講話や体験学習により“愛と汗”の人づくりを目的として開催する。

期 日 4月11日(水)～13日(金) <2泊3日>
会 場 レイクサイド磐光(福島県)
定 員 80名

(2) リフレッシュセミナー

中堅社員等を対象として、ブラインドウォークや水行等の体験を通し、新たな「気付き」をうながすことで心身をリフレッシュさせ、社会人として一層の活力を生むことを目的として開催する。

期 日 平成31年2月6日(水)～8日(金) <2泊3日>
会 場 レイクサイド磐光(福島県)
対 象 18歳以上
定 員 50名

3. 受託セミナー

多様な企業・団体等の人材育成の要望に応える修養団ならではのセミナーを企画・実施し、広く“愛と汗”の精神の普及に努める。

実施予定回数 50回

(1) ブラインド・ウォークセミナー

“思いやりの心”“信じ合う心”“感謝の心”の三つの心を体感し、より温もりのある心豊かな人間関係を築くことを目的としたセミナー。

コース：半日、1日

(2) パート社員セミナー

スーパーマーケット等のパートタイム社員を対象に、職場の人間関係をより円滑にする心のあり方や対人関係スキルの向上を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

(3) 新入社員セミナー

学生から社会人への意識変革を図り、社会人としての心構えと実行への意欲を高めるセミナー。

コース：半日、1日、1泊2日、2泊3日

(4) 一般社員セミナー

1社単独による研修や職場リーダーの育成を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

4. 青少年・社会教育団体等への講師派遣・幹旋

委嘱講師の充実を図り、青少年団体をはじめとした諸団体、学校、企業に積極的に働きかけ、講習会・家庭教育講座や人生講座への講師派遣や、レクリエーション、キャンプ等のプログラムを企画立案し、指導者派遣の一層の拡大を図る。

IV. 家庭教育活動

1. 家庭《共育》セミナー

親や大人が子どもと共に育ち、家族や学校・地域、関係団体等が連携・協力して共に子どもや青少年を育てるためのセミナーを開催する。プログラムは、“地域の特色を活かし”“楽しい子育て”をコンセプトに、実施地域の実情に沿って展開する。

開催数 15会場
期 間 通年
参加者 各20～100名
講師 各2名

2. 親子で楽しむ漁業体験！

漁業体験を親と子がともに体験する中で、多くの人や自然に生かされていることを実感しながら、子どもたちの自主性や協調性を育み、親子の絆を深める機会とする。

開催数 2回
開催日 5月26日（土）～27日（日）
9月8日（土）～9日（日） <各1泊2日>
活動地 宮城県石巻市
参加者 小中学生とその親（各回20名）
講師 各2～3名

V. 会員組織活動

1. 「幸せの種まき運動」の推進

会員および会員組織と連携を図り、さらに諸団体に呼びかけて、“愛と汗”を基本に下記事業を展開し、心ひとつにして「幸せの種まき運動」を推進する。

(1) 愛汗実践塾

“愛と汗”を基本とした修養団の理念を学び、「幸せの種まき」を実践するための意識を高める機会として、連合会・クラブ等を実施団体とし研修会方式を用いて各地で開催。会員組織の活性化や後継者育成、会員拡大を図る。

開催数 7会場（標準日程10時～17時）
参加者 各30名程度
講師 各1～2名

(2) 第10回「チャリティー演芸会」ーストリートチルドレン支援ー

開催日 7月6日（金）
会場 SYDホール（東京都）

(3) 第2回「東京ベルズ」チャリティコンサートーストリートチルドレン支援ー

開催日 10月12日（金）
会場 SYDホール（東京都）

(4) 「チャリティーバザー」ーストリートチルドレン支援ー

開催日 11月10日（土）
会場 SYDビルエントランスホールなど（東京都）

2. 会員組織活動への支援

会員組織がそれぞれの地域や職域で社会貢献活動(幸せの種まき)をすすめるために、会議を開催するほか講師派遣などの支援を行い、会員加入促進を図る。

(1) 第7回「全国修養団運動推進会議」

各クラブ・連合会の活動を活性化する上で、事業や日常活動の具体的展開について協議するとともに、各会員組織間の情報交換を行う。

開催日 6月2日(土)

会場 SYDホール(東京都)

参加者 主なクラブ・連合会の代表者またはそれに準ずる人 35名

(2) 講師等の派遣

派遣数 20回程度(随時)

(3) 活動助成金の支出

各クラブ・連合会が行う活動に助成金を交付し、組織活動の拡充と活性化を図る。

(4) 皇居勤労奉仕団(実施:伊勢青少年研修センター)

開催数 4回(5月、6月、10月、11月) <各4泊5日>

参加者 各40名

スタッフ 各3名

(5) 連合会等主催「皇居勤労奉仕」への支援

実施を支援し、要請によって職員を派遣する。

実施数 2回 <各4泊5日>

(6) 『SYDかわらばん<最新活動情報>』の発行・配布

毎月20日(8月を除く)に各1,000~1,100部発行し、各会員組織等に配布する。
あわせて、ホームページでも全記事を掲載して広報する。

VI. 幸せの種まき献金活動

1年をとおして募金活動を行い、フィリピンをはじめとする海外の経済的に恵まれない子どもたちや国内外の大災害の被災者、福祉施設等を支援する。

1. 募金活動

会員や諸事業参加者のみならず、機関誌やホームページによる広報活動で広く募金を呼びかけ、積極的に募金活動を展開する。また、活動報告書やフィリピンの学資支援を受けている子どもたちを紹介するパンフレットを作成配布し、この活動への理解者・協力者を広げる。

2. 支援活動

フィリピンの経済的に恵まれない子どもたちの学資支援をはじめとする支援活動を継続して行うとともに、国内外の大災害被災者や福祉施設への支援も行う。募金活動、支援先や支援方法については、「幸せの種まき献金」委員会で定期的に検討する。

VII. 出版・広報活動

1. 機関誌『向上』『愛』の発行

(1) 『向上』

修養団の事業・活動に賛同し、「幸せの種まき」を実践されている方や著名人・文筆家にご執筆のご協力をいただき、「愛と汗」の運動について親しみやすく紹介し、機関誌にふさわしい誌面作りに努める。

(2) 『愛』

心を豊かにする子育てや人との関わり方、青少年のボランティア活動などについての記事をとおして、「愛と汗」の精神や「幸せの種まき運動」に役立つ誌面作りに努める。

2. 2019年版「日々の力」の制作・販売

(1) 制作

題 名 「まあるく まあるく」
作 者 <絵と文字>高橋淳子（デザイン書道作家）
印刷部数 16,500部

(2) 販売

目 標 16,000部

3. 教育図書の普及、教材の販売

『蓮沼門三の言葉110』、『人生のことば365日』などの人生書や教育図書、研修教材等の販売に努める。

4. ホームページの充実

内容の充実と速やかな更新をおこない、最新情報を発信する。

VIII. 施設運営事業

1. 伊勢青少年研修センター

- ・講習会を事業の中心として運営する。
- ・施設の有効活用を図り、研修会場としての施設利用を積極的に進める。
- ・施設利用団体に、愛と汗の精神に基づいた本団教育プログラムを取り入れていただくよう働きかける。
- ・地域の各団体との連携を密にし、各事業を展開していく。

2. 修養団SYDビル・SYDホール

- ・セミナー、講演会や各種活動の拠点として一層の有効活用を図る。
- ・2階ホール及び16階会議室の利用を促進する。
- ・テナントに対し、快適なオフィス環境を提供するよう適性管理に努める。

3. ばんだいふれあいぴあ

- ・自然体験活動の拠点として、主催事業で利用するとともに諸団体の利用に供し、有効活用に努める。
- ・施設の整備を行い、利用環境の一層の向上を図る。

4. 関西会館

- ・賃貸スペースの適正管理に努める。

IX. 表彰

1. 第13回SYDボランティア奨励賞

都道府県教育委員会、主要市町村教育委員会、キャンプ開催地や参加者のいる小・中学校、高校、大学を中心にSYDボランティア奨励賞・パンフレットを配布、応募を呼びかける。顕著な活動を顕彰することにより、ボランティア活動に対する意識を高揚し、活動への参加を促して青少年の健全育成に寄与する。

(1) SYDボランティア奨励賞贈呈式

表彰式 平成31年2月11日（月・祝）
会場 SYDホール

(2) SYDボランティア奨励賞・パンフレット配布

体裁 A4版、2頁、4色刷
部数 18,000部
配布先 18,000ヵ所

2. 平成30年度修養団年次功労者表彰

X. 関係機関・団体との連携・協力

青少年教育及び社会教育の関係機関及び諸団体との連携を図り協力し合い、青少年の健全育成ならびに社会教育に寄与する活動を展開する。